

研究分野のキーワード：国際比較研究，工夫・創造，創造力を育成するものづくり開発，評価研究

### 研究紹介

さて，問題です。「問題1. Aさん（写真1）とBさん（写真2）が引いた線があります。基準線に対して，どちらの線がまっすぐに引いてありますか。」



写真1. Aさん

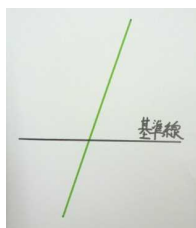


写真2. Bさん

答えは，Aさんですね。見た目からもまっすぐだと分かります。三角定規で調べれば，直角になっていることも確かめられます。このような問題は，まっすぐに線を引く方法（知識）を知っているか，まっすぐに線を引く力（技能）を身に付けているかを評価する問題です。

次の問題です。「問題2. 下の作品のうち，どちらの作品が工夫している作品でしょうか。」



写真3. Cさん



写真4. Dさん

おそらく，答えに迷ってしまう人が多くいたかもしれません。それは，先の問題と異なり，見た目からはすぐに判断できないからです。「工夫」と一言と言っても，人によって「工夫」に対するとらえ方は様々です。現在，小・中学校では，「工夫・創造」する力のような思考力・判断力・表現力の育成が求められています。学校の先生方は，それらの力を育成すると共に，適切な評価もしなければいけません。そのために，図1のように，疑問や不安を持っている先生方が少なからずいます。

Aさんの作品は，評価を◎か○で迷うな。保護者からの問い合わせがあった時に，適切に説明できるようにしておかないと，うーん。

僕の学年は，単学級だからなあ。工夫・創造の評価基準を，他の先生にも検討してもらいたいな。



図1. 「工夫・創造」の評価をしようとする熱心な先生

私は，ものづくりを作っている途中の生徒の様子や，作り終えた完成作品などから，生徒一人一人の「工夫・創造」をどのように評価したらよいか，という点に注目した「評価研究」を進めています。また，幼稚園段階から「創造力を育成するものづくり開発」も行っています。

一方，イギリスやアメリカなどの他国では，問題2のような「工夫・創造」を育成・評価する研究が盛んに行われています。私は，他国との国際比

較研究を通じて，日本の教育に活かせる知見の提供を心がけています。他国の教育や工夫・創造を育成・評価することに興味がある方は，一緒に学びましょう！